

雄勝花物語の歩み

テーマ：行政との連携を目指して（石巻市雄勝町）



石巻市雄勝町の復興課題

1、震災により人口が激減

- ・4300人 → 1000人
- ・中心部1600人 → 100人

* 漁師さん以外は不便な雄勝に残る理由がなかった → 町外に自宅再建

2、地域課題

①交流人口の拡大

②新規事業と若者の雇用 * 持続可能なまちづくり

- ・高台移転事業完了及び防潮堤などのハード事業の終盤の時期
- ・平30現在の行政的復興課題: 中心部低平地の利活用



「雄勝花物語」は、地域課題の解決に取り組む団体

(目指す会社像: 地域課題の解決を自社の利益とするビジネス=ソーシャルビジネス)

宮城県 石巻市雄勝町



3. 11で壊滅した中心部



町全体で243人死亡(うち70人不明)

2011年

東日本大震災後の実家跡地の様子



実家敷地530坪で、妻の母親、叔母、いとこを亡くす

ガーデンの第一歩を造った妻の思い

- ・ 母親を助けられなかった悔い、自責の感情
- ・ 自分の故郷（人とのつながり）を失った喪失感



どのように自分をケアしたのか

- ・ 母親の供養に花を植栽→失った人や失ったものをつなげる場をつくりたい。
→そこに賛同する被災者、支援者、ボランティア
2000人がつながって、2013年10月ローズガーデンが完成

2014～NHKのEテレ「趣味の園芸」で毎月1回放映



**2011年8月6日 実家の跡地（雄勝ローズファクトリーガーデン）に
妻が母の好きだったハウズキを植栽しました。**

OGATU “花物語”

スマイルみやぎ・in 雄勝

希望の花！種をまこう！

自由参加お待ちしております。

3月4日（日）9時30分～

場所：雄勝味噌作

休憩・昼食時特設コーナー

うどん・かつサンド・焼き牡蠣・ハーブティー（お茶）

問い合わせ：雄勝花物語実行委員会（徳水TEL 090-9037-4593）

主催：河北新報社・石巻を花と緑で明るくする運動実行委員会

特別協賛：花王・ニコン・ビズ3 11ガーデンチャリティ

花畑協力：土地所有者・雄勝味噌作 鈴木光雄宅跡地

協力：洞源院義林寺・阿部水産・とんかつ和幸・千葉大学園芸学部・NPOオンザロード

2012年

雄勝花物語実行委員会の結成

雄勝花物語第1章

メドウガーデン

・プロジェクト

支援者

- ・河北新報社
- ・花と緑の力で3. 11プロジェクト
みやぎ委員会（鎌田秀夫氏）



プロジェクトの最大の支援者：鎌田秀夫氏並びに千葉大学園芸学部秋田典子準教授



雄勝石スレートで「OGATSU」の花文字を作っています



2012年6月 千葉大学園芸学部の皆さんが3月に続いて4回目のボランティアに来てくれました。



被災地のオアシスとなった花畑

2013年

雄勝花物語 第2章

ローズファクトリーガーデン

プロジェクト

2013年3月4日スタート（70名の参加）



千葉大学園芸学部、I N J M，スイートトリート3・11地元高校生、雄勝住民が参加





完成したガーデンの全景



開園コンサートは400人の参加がありました。運営は全てボランティアの皆さん

2014年

雄勝花物語 第3章

観光バラ園プロジェクト

一般社法人(非営利型)

雄勝花物語の設立

目標： 地域復興に貢献する会社経営と後継者の育成

事業内容

- 1 被災者支援:被災地緑化、ガーデン無料開放、無料コンサート等
- 2 教育支援:語り部・防災教育 & ボランティア受入
雄勝環境教育センターの運営
- 3 事業:体験教室(花を活用した小物制作)
ハーブ栽培、**オリーブの試験栽培**

【妻の思い】

住民が亡くなった人や亡くなったものをつなげる場をつくりたい＝コミュニティの再生⇒**自ら被災者を支援することで自分の心のケアを果たす**

(代表理事を担ってもらう)

+

【私の思い】

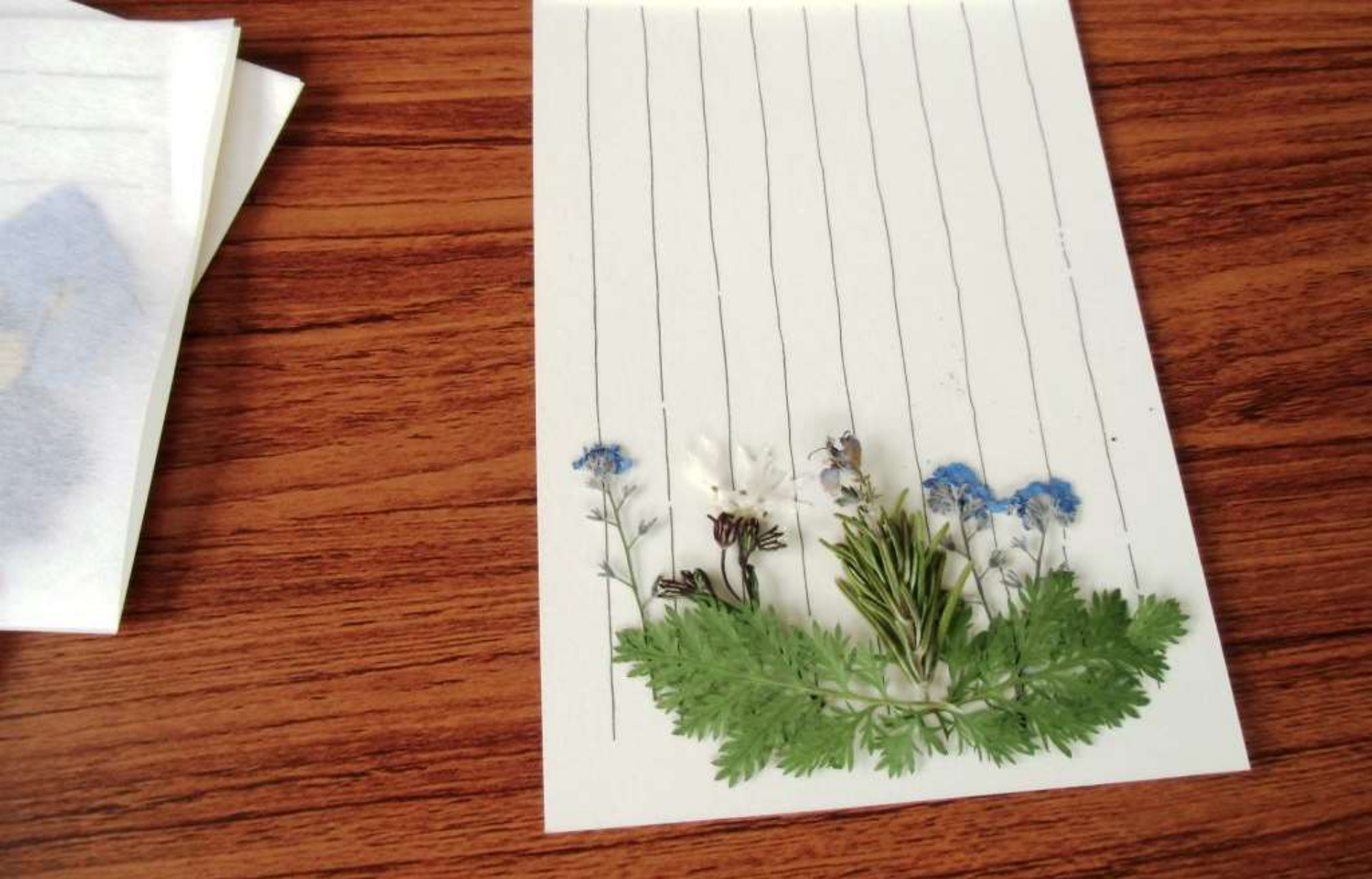
教師として社会参加の学力を育成する**復興教育**を実施してきたが、地域に子どもたちを受け入れる会社はない。なければ自前で作ろう。雇用を生み、持続可能な地域経済(お金が地域で回る地域内循環型経済)の構築を目指す⇒**自ら町を再構築することで心のケアを果たす(共同代表)**



ラベンダー畑の造成（ボランティアは、まなみ組）



体験教室の開催 ハンキングバスケット教室



小物製作を開始 押し花葉書き



防災教育プログラムの実施

企業研修と被災地教育旅行のボランティアの受け入れ 年間で1000人以上



団体の事業部門の方針確認

- 1 持続可能な雄勝をつくるために(雄勝花物語の**目的**)
- 2 事業化を軌道に乗せて若者の雇用を生み出す(**手段**)
 - ・オリーブ栽培 : 2014年～石巻観光協会と試験栽培
2017年～石巻市と連携120本栽培中

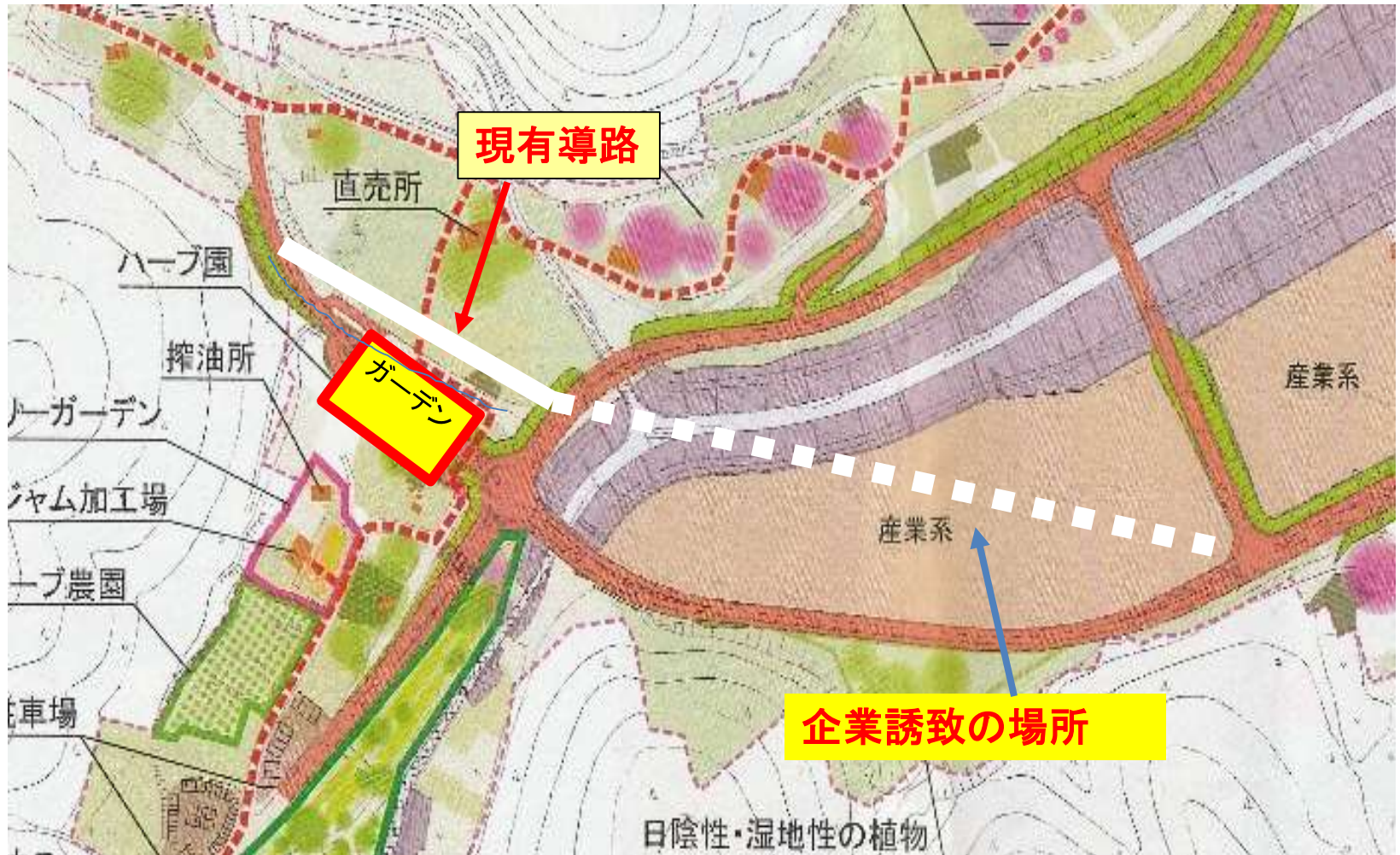


地域復興に貢献にする会社経営と後継者の育成
地域再生の復興モデルを目指す

NHK趣味の園芸で放映中

復興道路建設計画に伴うガーデン移転問題の発生！

2014年復興道路の計画案の提示。石巻市雄勝総合支所は**企業誘致の土地を確保するため**に復興道路を迂回させ、**ガーデンの真上に道路を建設**する計画を立案。➡ 当団体は当初移転に反対。4000人のボランティアと造ったガーデンを壊すのは忍びない。



石巻市行政との連携の模索

2013年～2014年 ガーデン移転に反対

2015年～移転に同意する意思を表明

本団体が中心となった「雄勝地区自然と暮らしの再生実行委員会」と3.11花プロの鎌田氏と共同で「低平地の利活用案」を支所に提案➡図1

2016年～千葉大学園芸学部秋田典子研究室が「低平地利活用案」を支所に提案➡図2

* 誘致企業の経営が悪化し、工場建設がとん挫➡倒産

2017年～雄勝総合支所の新支所長S氏

・企業誘致型企業誘致型の復興策から住民の提案を生かしたボトムアップアップ型へ転換

「雄勝ガーデンパーク構想」発表➡図3

住民との連携が実現！

教訓：復興の担い手は最終的には住民。役所がどんなに立派な図面を描いても担い手の住民が参加しなければ何一つ実現はしない。諦めずに粘り強く、時期が来るのを待つ姿勢が大切！

雄勝地区自然と暮らしの再生事業「味噌作地区低平地活用」第Ⅰ期企画案

提案者：雄勝地区自然と暮らしの再生実行委員会

・実行委員会構成団体（一般社団法人雄勝花物語、雄勝生活研究所、NPO法人雄勝まちづくり協会、雄勝産産販売組合、一般社団法人石巻観光協会） 事務局：石巻観光協会

第Ⅰ期 企画案（平成27～28年度）

【雄勝ローズファクトリーガーデンを観光拠点にしたビレッジ建設とラベンダー園の造成】

～ 雄勝第2の観光拠点として、雄勝夢のビレッジ構想 ～

経営・管理（一般社団法人雄勝花物語・雄勝生活研究所・石巻観光協会）

第Ⅰ期土盛り区域
山側2m～平地1m

山側

雄勝ビレッジエリア（第Ⅰ期）

- ①ミニ東京駅舎をシンボルにしたお土産ショップ（現存移転）
- ②体験教室・環境教育・防災教育室（現存移転・改築）
- ③喫茶レストラン（オーリングハウスのような）新設
- ④ジャム加工室などの生産物加工施設 新設

雄勝ローズファクトリーガーデンエリア（第Ⅰ期）

- ①バラとハーブの観光施設（現存移転）
- ②音楽や演奏ができるバーゴラ施設（現存移転）
- ③子どもの遊具と芝生（現存）

ラベンダー園・市民農園エリア（第Ⅰ期）

- ①ラベンダー園（鑑賞用とオイル精製用） 新設
- ②市民農園（小さな小屋付） 新設
- ③花畑メドウガーデン（ヤギふれ合い広場） 新設

ウォーターフロントエリア（第Ⅰ期）

- ・子どもが遊ぶ親水広場
- ・環境教育の場



ラベンダー園
雄勝石積み

雄勝ビレッジエリア

ローズファクトリーガーデン
（バラ・ハーブ）

ラベンダー園
雄勝石積み

花畑（メドウガーデン）

ローズファクトリーガーデン

持続可能な雄勝をつくるために果たす本企画の効果

- ①お年寄りの働く場の創出による生きがいづくり
- ②若者の雇用創出
- ③外部交流人口（観光・ボランティア・企業研修）の増加
- ④親子連れの学びと遊びの場の提供
- ⑤雄勝石の石積みやスレート屋根による雄勝の魅力発信
- ⑥雄勝の気候と湧水を生かした作物の栽培と食の提供

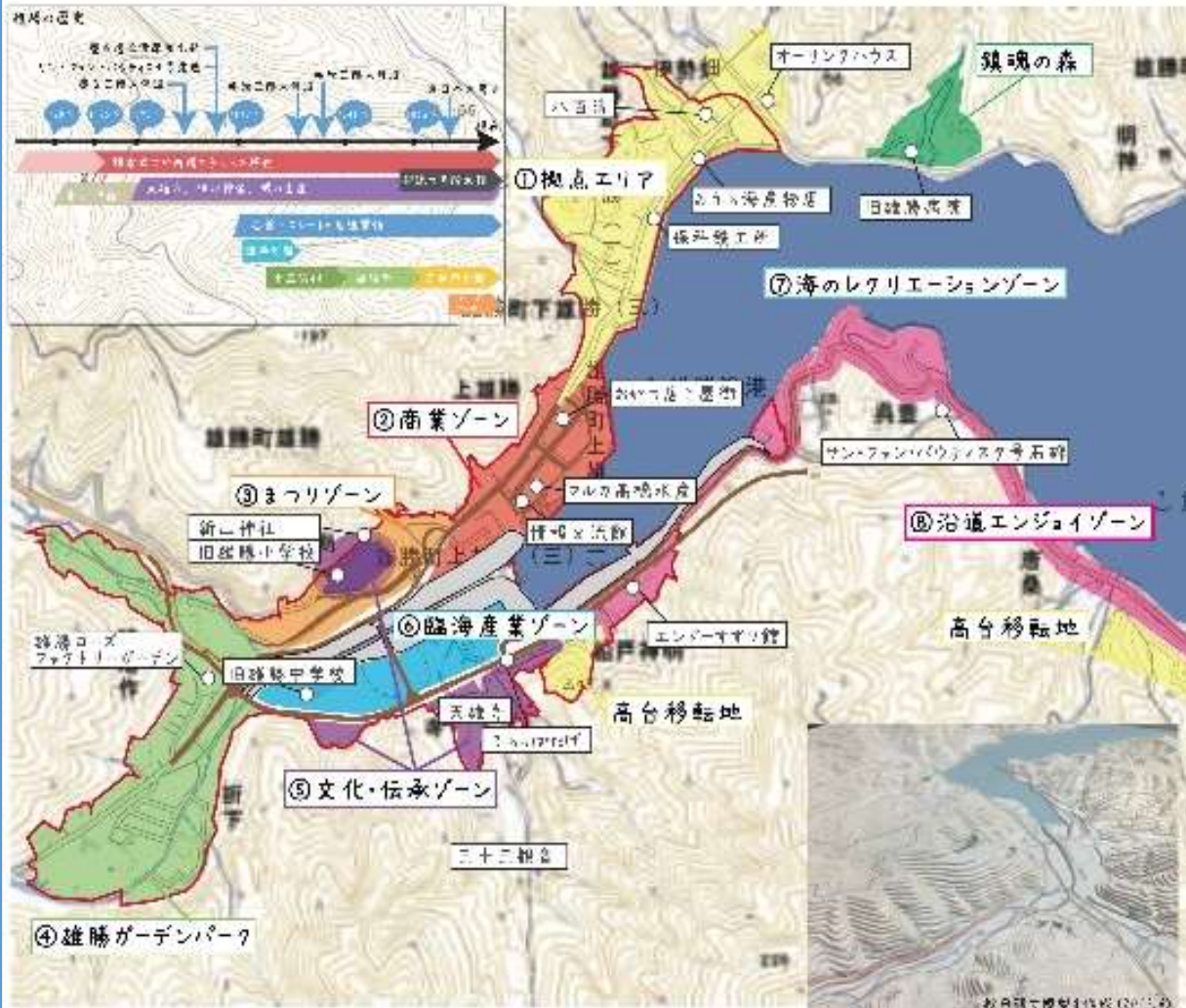
2015年4月21日現在の企画案（コンセプト：泉ボタニカルガーデン鎌田秀夫氏、作図：徳水博志）

雄勝中心部土地利用構想 2016

2016.10.30 版 千葉大学秋田研究室

【全体コンセプト】

- ・町の記憶と魅力を受け継ぎ、豊かな海と山と里をのんびり楽しめる癒しの雄勝
- ・豊かな自然を朝から晩まで存分に堪能できる場所づくり
- ・雄勝での持続的な生活と交流人口の増加を両立する



①拠点エリア

- ・高台移転事業により、海に見える新しい住宅地が作られる。
- ・総合支所や消防署など行政機能が集約される。
- ・体育館は法印神楽、黒船太鼓の練習等の地域の文化・レクリエーションの場として利用。

②商業ゾーン

- ・高台移転地造成工事に伴う商業施設の立地エリア。
- ・雄勝で採れた海の幸・特産品を楽しむ雄勝に来た人と交流できる場所

③まつりゾーン

- ・文化的なイベント（雄勝法印神楽・雄勝太鼓）やスポーツイベント（運動会、雄勝トレイルラン、ツール・ド・東北など）を行う。
- ・旧雄勝小学校の場所に地域のみんが集まり、今までのつながりを継承して新しい雄勝を作っていく。

④雄勝ガーデンパーク

- ・ガーデンを軸に子どもから大人まで1日楽しめるゾーン
- ・アクティビティ：ガーデン、カフェ、コンサートなど
- ・防災教育・環境教育
- ・農業：野菜、山菜、オリーブ、ハーブ、スパイスなどを生産し、地中海料理として提供
- ・動物：ヤギやアルパカによる除草管理とふれあいの場

⑤文化・伝承ゾーン

- ・雄勝に伝わる伝統的な雄勝現や法印神楽、津波の教訓を未来に伝える
- ・天雄寺を文化の拠点とし、海を眺めながら静かに雄勝の過去や未来を考える場所

⑥臨海産業ゾーン

- ・雄勝の産業を担うためのゾーン。
- ・1960年頃畑作が行われていた場所→新しい雄勝の産業を生み出す。

⑦海のレクリエーションゾーン

- ・海と多様な形でふれあう場。
- ・マリンスポーツ、海上自転車、花火大会、海釣り公園

⑧沿道エンジョイゾーン

- ・高台移転地と雄勝の内外の移動をつなぐ。
- ・雄勝の風景を楽しむ場所に。



雄勝中心部土地利用構想 2016

2016.10.30 版 千葉大学秋田研究室

広域計画 - 雄勝・女川・石巻市街地をつなぐ -

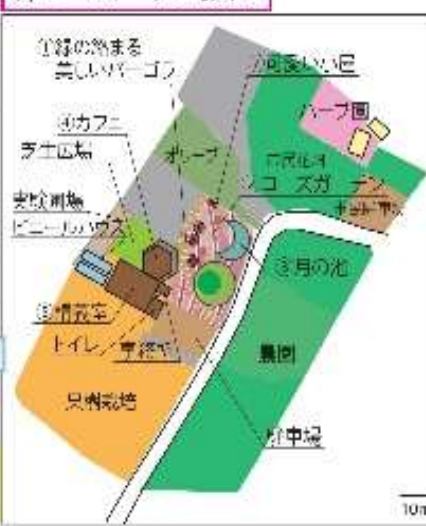
3つのエリアと各拠点をつなぐ国道398号線を「復興応援ルート」として位置付ける。
雄勝町の十五浜の魅力を広域ルートにつなげ、活かしていく。



雄勝ガーデンパーク詳細



新ローズガーデン詳細



雄勝ガーデンパーク：ゾーニング

- ・多様な活用ができるよう、土地利用が定まるまで芝生のオープンスペースとして管理する。
- ・最低限のインフラ整備：フットパス、園路、お手洗い、親水エリア、電気、上下水道、排水を確保

親水エリア

川の近くで遊んだり釣りをしてのんびり過ごせる場所。



市民農園エリア

雄勝ファンの多くの方へ農地を貸し出して、雄勝に親しみ交流できる場とする。



ふれあい牧場エリア

草地の管理をヤギやアルパカなどの草食動物にしてもらいながら親子連れなどの訪問者が触れ合えるようにする。
アルパカは雌雄に分けて、森林公園や途中の集落にも牧場を。
ローズガーデン内の子ども広場での放牧も検討。



農業エリア

きれいな水を活かして、野菜、山菜、ハーブ、オリーブ、スパイス、サツマイモ、大豆を生産する。海で採れた魚や海産物と組み合わせ、地中海料理風に提供。雄勝産のプレートに添えて。
味噌作の味噌作りも行う。



新ローズガーデンエリア

- ① 緑の絡まる美しいバーゴラ
車椅子の通路であり、コンサートや小さなイベントの舞台にもなります
- ② ローズガーデン
円形の整形形式庭園
- ③ 月の池
三日月をモチーフにした池
- ④ カフェ
ガーデン内のハーブ・果物を使った飲食物を提供する簡易カフェ
- ⑤ 講義室
防災教育や環境教育の場所
- ⑥ ジャムの加工場
農園で採れたラズベリーやブルーベリー、イチジクをジャムに
- ⑦ 可愛い小屋
小さいカフェ・キッチン、ガーデンで作った小物を販売





雄勝ガーデンパーク構想(石巻市役所雄勝総合支所立案)

テーマ

- ・「花と緑のあふれる美しい空間で来訪者をあたたかく迎え、誰もが心地よくゆったりと過ごせる癒しの空間」

〈基本方針〉

- ①花と緑をベースとする美しい空間形を形成する。
- ②緑の新しい産業を育成する。
- ③緑という枠の中で柔軟性のある土地利用を可能とする。
- ④住民等によるボトムアップ型の取り組みをベースとする。
- ⑤緑による復興まちづくりを積極的に発信する。

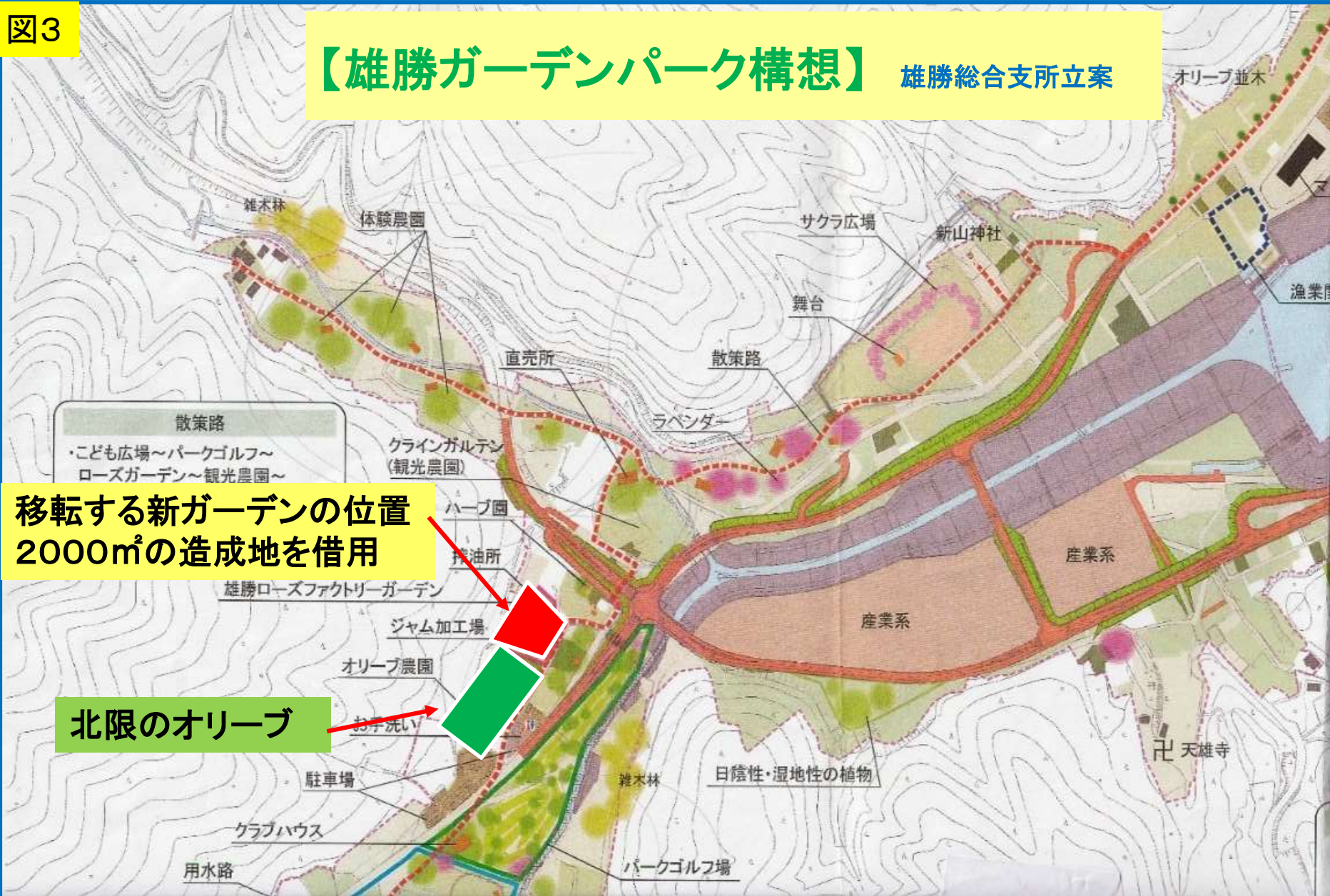
* 緑 ➡ 北限のオリーブの栽培

雄勝総合支所支所長S氏並びに千葉大学園芸学部の秋田典子先生が尽力。

【雄勝ガーデンパーク構想】

雄勝総合支所立案

オリーブ並木



移転する新ガーデンの位置
2000㎡の造成地を借用

北限のオリーブ

雄勝ガーデンパーク構想の中核施設 ➡ 雄勝ローズファクトリーガーデンが指定される。➡ 雄勝総合支所との連携が実現！

2017年秋～新ガーデンの建設～2018年3月完成

新雄勝ローズファクトリーガーデン

明日へつなげよう みんなの手で！

北限のオリーブ園



収穫の郷

美なるものなら何でも育てよう

- ・ジューンベリー・ブルーベリー・プラム
- ・エスラウド・サルナシ・木いちご
- ・イチジク・ウメ・オリーブ
- ・ユズ・サクラんぼ・かき
- ・もも・リンゴ・クワ

みんなの手で創ろう
たくさんの方の協力ありがとう
Special Thanks

OGATU ROSE FACTORY GARDEN
雄勝ローズファクトリーガーデン
一般社団法人 雄勝花物語

Produce: 花と緑の力で3.11プロジェクトみやぎ復興
千葉大学大学院園芸学専攻科林田研究室

ローズガーデン
ドン・フィリッポ・フランシスコ (支倉常長) 航海の証
伊達の命を受け支倉常長がたどる大航海のロマンス

雄勝の郷エリア
雄勝の自然と豊かな海から
子供たちの歓声が聞こえる夢と希望の庭



作業中のボランティアの皆さん



完成した新ガーデン正面



テープカット(ご来賓の皆さん)

北限のオリーブの行政との連携



2014年～北限のオリーブの試験栽培

石巻市観光協会の支援事業〔地球環境基金〕



雄勝町出身の女性Oさん

【強い思い】

故郷の雄勝にオリーブを植えて復興を後押ししたい。地球環境基金を活用し、復興庁とも連携して、ガーデンに15本のオリーブの苗木を植栽していただく。

「北限のオリーブ」花開く



北上地区で、6月下旬に咲いたオリーブの花

石巻市がオリーブの生産体制確立を目指し、同市北上町など4カ所に設けた試験栽培場で先ごろ、シシボにしようと、市は栽培技術の習得に力を注ぐ。関係者の間で、2020年東京五輪で、メダリストにオリーブの葉で作った

石巻市、4カ所で試験栽培

越冬成功、順調に生育 特産化目標「復興の象徴に」

王冠を贈ろうという構想も生まれている。オリーブはモクセイ科で中近東や地中海地方が主な産地。寒冷地である東北地方ではあまり栽培されていないが、石巻は東北の中でも日照時間が長く降水量も少ない上、産地間競争がないなど、比較的条件がそろっている。一方、沿岸地域は風が強く枝折れも確認されていて、強風対策などが課題となっている。市は農業生産法人みのりなどに試験事業を委託している。14年、オリーブが冬を越せるかどうかを調べるため雄勝町と網地島に定植したところ、越冬は可能なのことが分かった。その翌年から香川県小豆郡の栽培業者荒井信雄氏の指導を受け、北上町に100本、河北町に20本植えて栽培実験を開始した。

試験栽培場は4カ所とも風通しの良い山間部などの高台で、今のところ順調に生育、6月下旬には全所で花芽が確認できた。石巻市ではまたオリーブの認知度が低く栽培できる担い手も少ない。20年東京五輪での活用を夢に描きながら、石巻の特産品にするための模索が続いている。

雄勝花物語のオリーブ栽培の歩み

2014年、雄勝15本試験栽培
牡鹿15本

← 石巻市役所が連携

2015年 河北地区20本
2016年 北上地区450本

2017年 市役所：「石巻市北限オリーブ研究会」を発足
・雄勝ローズガーデン110本定植。

- ・雄勝総合支所から3600m²の借地を提供していただく。
- ・オリーブ事業でも本団体と行政との連携が実現！

本ガーデンが、石巻市「北限のオリーブ」の発祥地

2017年1月設立 **石巻市と連携し6次産業化と観光業を目指す**

2017年1月設立 **石巻市と連携し6次産業化と観光業を目指す**



会長：阪井聡至復興審議官（財務省）
副会長：徳水博志（地元代表）



行政との連携にあたり今後の課題

1 雄勝ガーデンパーク構想の具現化

- ・行政と連携した図面作成 ➡現在ハンズオン支援事業で実施中
- ・担い手同士の連携(雄勝花物語、モリウミナス) ➡体験プログラム作成中
- ・企業研修、教育旅行など年間1000人のボランティアの継続的な確保
- ・外部支援者とのさらなるネットワークの構築

2 緑産業としての北限のオリーブの拡大

- ・雄勝中学校跡地にオリーブ栽培500～800本を石巻市に提案中 ➡ 低平地の利活用を進めて、持続可能な地域経済の構築、若者の雇用創出を目指す。

3 復興の後継者の育成

- ・学校教育との連携 ➡ [地域復興を学ぶ学習]の提案、グローバルな学力
- ・地域再生の後継者育成 ➡ Uターン、Iターンの若者を対象者に【雄勝環境未来塾】を設立予定 (雄勝花物語の教育支援活動)



雄勝小学校の教員時2011年～2013年[復興教育]を実施

行政との連携のあり方のまとめ

本ガーデンがガーデンパーク構想の中核施設に認定されるまで



2015年 3. 11花プロ・石巻観光協会・雄勝花物語の低平地利活用案の提案

2016年 千葉大学園芸学部 秋田研究室の低平地利活用案の提案

『行政との連携の上の教訓』

・外部支援者と連携し、決してあきらめることなく、行政との連携を模索してきた。行政側も復興の担い手は意欲のある住民に他ならないと認識した。私たちの復興の動機は、**故郷への愛**！まちを残したいという願い！ここに**骨をうずめる覚悟**である。本気でまちを創る側に回るならば道は必ず開ける。行政や他の団体とお互いに歩み寄り、連携する姿勢が大切である。

『まちづくりに取り組んできた教訓』

・復興事業とは行政主導では成功しない。そこに住んでいる住民自身が町の将来を決めるという**住民自治と行政との共同作業**である。住民はお上に依存する意識を改め、あるいはまた過度の批判的言動は慎み、主体的に復興に参画するプロセスで自らの中に**自治力**を育てることが必要である。復興とは住民自身が成長し、自らの中に**自治の力育てるプロセス**でもある。